

日本の銀行・証券会社におけるリスクマネジメントの今後について

リスクとは、予測不可能な「不確実性」とは異なり、その確率分布が判明しており、金融工学等の手法により予測可能な事象に対応する概念である。また、金融リスクマネジメントとは、個々の金融取引やポートフォリオに内在するリスクを洗い出し、評価および制御する行為から、金融機関（銀行・証券会社）全体のリスクを把握・マネジメントし、経営に活用する行為をいう。金融機関経営において、リスクをとらずして、リターン（収益）を生むことは基本的に不可能である。ただし、裁定取引（アービトラージ）により、リスクをとらないでリターンをあげるフリーランチの機会はいえない。

金融リスクマネジメントは、市場リスク、信用リスクなど、個々のリスクを対象としたものと、全社（行）的なリスクマネジメントとからなる階層的行為である。前者には、リスクの洗い出しに始まり、リスク評価、各種制御（損失の予防・軽減、ポートフォリオによるリスク分散、リスクヘッジ・リスク移転など）、実行および再評価の5つのプロセスがある。後者には、前者を受けて全社的に行う統合（的）リスク評価、部門別リスク極度枠の管理、リスク調整後収益性評価およびリスク資本（経済資本）の配賦のプロセスがある。金融機関にとって、経営資源である自己資本をいかに効率的に活用するかが、リスクマネジメントの本質ともいえる。

わが国においては、1980年代以降、金融自由化による各種規制の緩和とグローバル化が進み、また、金融技術およびIT技術の進展と相まって、金融商品および金融機関の業務は複雑かつ多様化し、そして高度化したものに変貌を遂げた。例えば、証券化技術は、原資産のリスクを加工し、投資家に各自のリスク選好に応じた証券を提供することを可能としたが、反面、リスクが不透明になるなどの弊害が生じ、証券化商品は、世界金融危機の元凶ともいわれている。これは、直接的には、個々の金融機関のリスク評価が十分ではなかったということになるが、金融インフラとしての格付会社のガバナンス強化や、規制（銀行のバーゼル規制や証券の国際規制）の見直しの論議に繋がっている。

現在、銀行・証券会社では、市場リスクや信用リスクなど既往のリスクやエマージングリスクのマネジメントが行われているが、技術面の他、リスクガバナンスの面でも、十分な対応がとられているとは言い難い。そこで今回の討論では、重要性を増してきている金融リスクマネジメントの問題点、それに対応するための具体的なプランの提言を主な論点としつつ、その際に「銀行・証券会社が抱える金融リスクについて、またそれに対応する管理方法について」をテーマの中心に据え、様々な視点から活発かつ積極的な議論を行っていただきたい。また、金融リスクの主な種類についても触れる事で、各々の具体的なプランを主張する際の一助とされる事を期待する。

主な論点	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 銀行・証券分野における金融リスク（信用、市場、流動性（決済を含む）、オペレーショナル、その他）を、リスク毎にその特性をまとめる ・ 金融リスクマネジメントを行う意義（金融システムの安定化とリスクマネジメントの意義の観点からまとめる）および現状をリスク毎にまとめる ・ 現状から見るリスクマネジメントの問題点をリスク毎にまとめる。リーマンショック等で明らかになった問題点を含めること ・ 金融リスクマネジメントに対して日本における今後の具体的なプラン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 銀行・証券分野におけるリスクマネジメントの双方を議論し、片方だけの偏りを避けること ・ 金融リスクとは何かの整理 ・ 金融リスクの主な種類、与える影響 ・ 金融リスクマネジメントを行う背景および現状をリスク毎に把握（必ずVaRには触れること） ・ リスクマネジメントの手法についてリスク毎の特性を考慮してまとめる ・ 国際的な金融・証券規制（銀行や証券会社への規制）の動向を確認した内容を含める ・ 国際的な議論のみではなく、わが国固有の事情も考慮した上で今後のプランを考えること